

# 海塩粒子による応力腐食割れに係る点検・調査

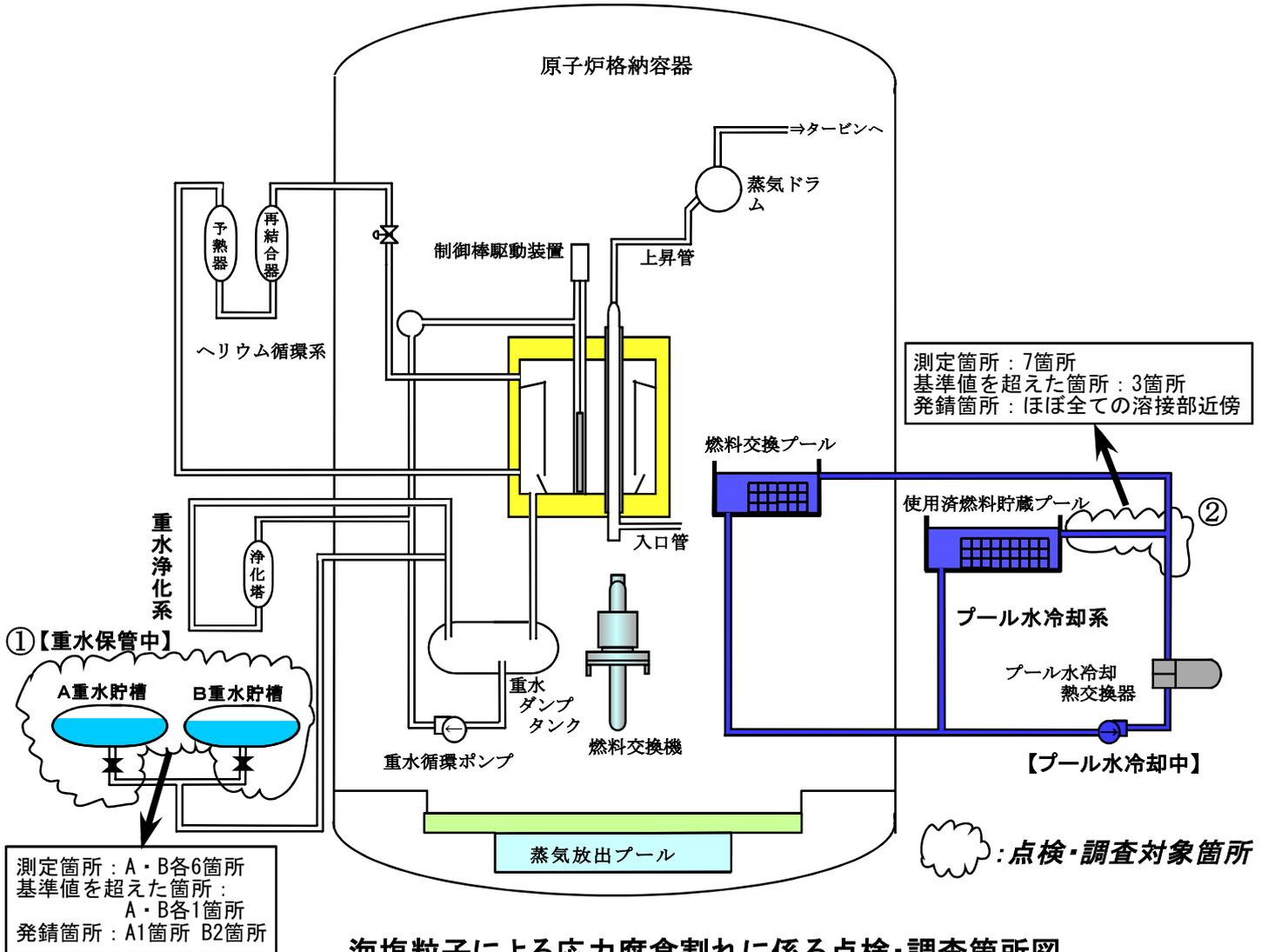
国内プラントにおいて、ステンレス配管の外表面に海塩粒子が付着し応力腐食割れが発生した事例に鑑みて、運転停止後も運用する設備のうち、海塩粒子が付着しやすい場所にある安全上重要な系統（プール水冷却系、重水冷却・浄化系）のステンレス配管やタンクについて塩分量測定及び目視点検を実施しました。

## (1) 塩分量測定結果

プール水冷却系配管及び重水冷却・浄化系A・B重水貯槽の選定した計19箇所（プール水冷却系配管7箇所、A・B重水貯槽12箇所）について塩分量測定を実施した結果、基準値を超える箇所がプール水冷却系配管で3箇所、重水貯槽で2箇所確認されました。  
このため、当該配管表面及び重水貯槽表面の洗浄を行い、塩分付着量が低い値なったことを確認しました。

## (2) 目視点検結果

プール水冷却系配管及び重水貯槽について目視点検を実施したところプール水冷却系配管のほぼ全ての溶接部近傍及びA・B重水貯槽（3箇所）に僅かな発錆が認められたことから、錆の除去を行い、目視点検及び代表箇所について浸透探傷検査を実施しましたが、指示は確認されませんでした。



海塩粒子による応力腐食割れに係る点検・調査箇所図